


M A T S U E

観光戦略プラン

2 0 2 3 - 2 0 2 9







宍道湖を照らす夕日、水辺の風景、神話、茶の湯文化。
自然、歴史、文化に支えられた松江ならではの魅力は、
私たちの暮らしに「あたりまえ」に溶け込んでいる。

私たちが、静かに守り育ててきた魅力は、パンデミック
による価値観の変化、環境や文化を次世代につなげるこ
との重要性、地域の持続可能性に注目が集まる今だから
こそ、大切な価値になる。

そんな「あたりまえ」の魅力を日本中、いや世界に広め、
世界中から人が集まる松江をつくろう。

CONTENTS

松江の魅力	-----	01
MATSUE 観光戦略プラン策定にあたって	-----	07
基本戦略	-----	11
基本戦略1 「魅力ある観光素材の磨き上げ」	-----	14
基本戦略2 「快適に過ごせる環境づくりと利便性向上」	-----	24
基本戦略3 「松江の魅力発信と誘客」	-----	32
基本戦略4 「観光地松江の土台づくり」	-----	42

“松江の魅力

都市的な魅力、自然、歴史、文化…
松江は多面的な魅力にあふれています。

現代 アート

ミュージアム

近代建築

夜の松江





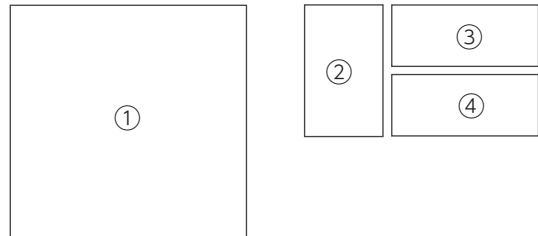
近代建築めぐり。近代建築めぐり。近代建築めぐり。
近代建築めぐり。近代建築めぐり。写真は興雲閣。

島根県立美術館、田部美術館、明々庵、菅田庵、松江城・カラコロ工房ライトアップ（ナイトタイムエコノミー）など、現代アートが楽しめる。

島根県立美術館、田部美術館、明々庵、菅田庵、松江城・カラコロ工房ライトアップ（ナイトタイムエコノミー）など、現代アートが楽しめる。島根県立美術館、田部美術館、明々庵、菅田庵、松江城・カラコロ工房ライトアップ（ナイトタイムエコノミー）など、現代アートが楽しめる。島根県立美術館、田部美術館、明々庵、菅田庵、松江城・カラコロ工房ライトアップ（ナイトタイムエコノミー）など、現代アートが楽しめる。島根県立美術館、田部美術館、明々庵、菅田庵、松江城・カラコロ工房ライトアップなど、現代アートが楽しめる。



湖畔のアート。湖畔のアート。湖畔のアート。湖畔のアート。湖畔のアート。



- ①夜のカラコロ工房
- ②松江水燈路
- ③島根県立美術館の夕日
- ④興雲閣

神と暮らす港町

神社

灯台

海のある風景



神社、灯台、地引網体験、クルーズ船、寿司づくり体験、ワイン・シャンパン、スイートルームが楽しめる美保関。神社、灯台、地引網体験、クルーズ船、寿司づくり体験、ワイン・シャンパン、スイートルームが楽しめる美保関。神社、灯台、地引網体験、クルーズ船、寿司づくり体験、ワイン・シャンパン、スイートルームが楽しめる美保関。

神社、灯台、地引網体験、クルーズ船、寿司づくり体験、ワイン・シャンパン、スイートルームが楽しめる美保関。神社、灯台、地引網体験、クルーズ船、寿司づくり体験、ワイン・シャンパン、スイートルームが楽しめる美保関。

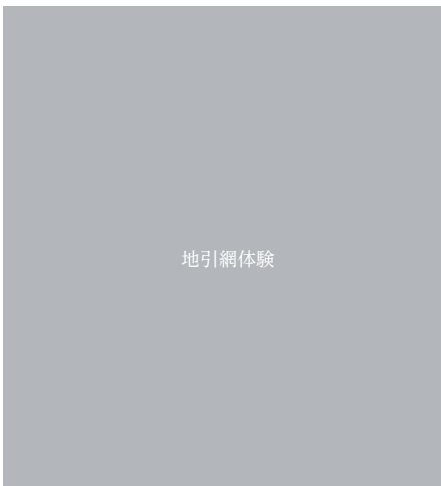
神社、灯台、地引網体験、クルーズ船、寿司づくり体験、ワイン・シャンパン、スイートルームが楽しめる美保関。神社、灯台、地引網体験、クルーズ船、寿司づくり体験。

寿司づくり体験

寿司づくり体験、寿司づくり体験、寿司づくり体験、寿司づくり体験、寿司づくり体験。



美保関 Mihonoseki



地引網体験、地引網体験、地引網体験、地引網体験、
地引網体験、地引網体験、地引網体験

- ①虹のかかる美保関灯台
- ②明島神社の宵宮
- ③青石畳通り
- ④諸手船神事
- ⑤青石畳通りに架かる屋号札





MATSUE 観光戦略プラン
策定にあたって

MAT SUE 観光戦略プラン策定の趣旨

01 観光戦略プランをつくる目的

新型コロナウイルス感染症による観光産業の大きな打撃や社会の変容、今後ますます厳しくなる観光地の地域間競争などに対応するため、松江市の重要な産業である観光に特化した戦略プランを策定し、地域経済の持続的な発展を図ることが急務です。

本プランの中で「国際文化観光都市 松江」の将来の姿を明らかにして、市民・事業者・行政など観光に関わる全ての人と同じ方向を目指して、時にチャレンジ精神を持って松江の観光を推進することができるように取り組みます。

02 なぜ観光振興に取り組むのでしょうか

少子高齢化社会を迎え、松江市の人口は2005(平成17)年の国勢調査以降、若者世代を中心に減少が続いています。人口が減っていくと、まちの経済が以前のように回らなくなって、当たり前だったサービスが受けられなくなったり、以前と同じ暮らしができなくなったりするかもしれません。

では、そうならないようにするためには、どうすれば良いでしょうか。

それぞれのまちにおいて特徴を生かした対策を講じる必要がありますが、松江市の解決策の一つは「観光振興」です。

松江市の主要な産業である観光は裾野が広く、観光が盛り上がると、観光客が宿泊する旅館やホテル、飲食店だけではなく、農業や水産業、加工業などの広い分野に良い循環があり、新たな働き場所が増えたり、多くの人が集まり交流する場所ができたりするなど、様々な効果があります。

松江市が持続可能なまちとして活性化して、住む人の幸福感や豊かさにつなげるためにも、みんなで同じ気持ちを持って観光振興に取り組む必要があります。

03 目標数値

本プランにおける2030(令和12)年の目標値を設定し、施策を推進します。

	2020年	UP!	2030年
観光消費額	349億円	→	750億円
観光入込客数	537万人	→	1,100万人
観光宿泊客数	115万人	→	250万人
外国人観光宿泊客数	0.8万人	→	15万人

04 将来像とコンセプト

将来像

世界中から松江に人が集まる

松江の魅力を輝かせて、国内外から人が自然に集まるまちを目指します。
 松江市総合計画（MATSUE DREAMS 2030）「2030年、市民の実感」にも掲げられている未来の松江の姿です。

コンセプト

Authentic Japan “MATSUE”
 ～城下町 水の都 暮らしに息づく伝統～

05 計画の期間

2023（令和5）年度から2029（令和11）年度までの7年間です。

本プランは、上位計画である松江市総合計画（MATSUE DREAMS 2030）との整合性を図りながら観光分野の基本計画として策定するものです。



“基本戦略

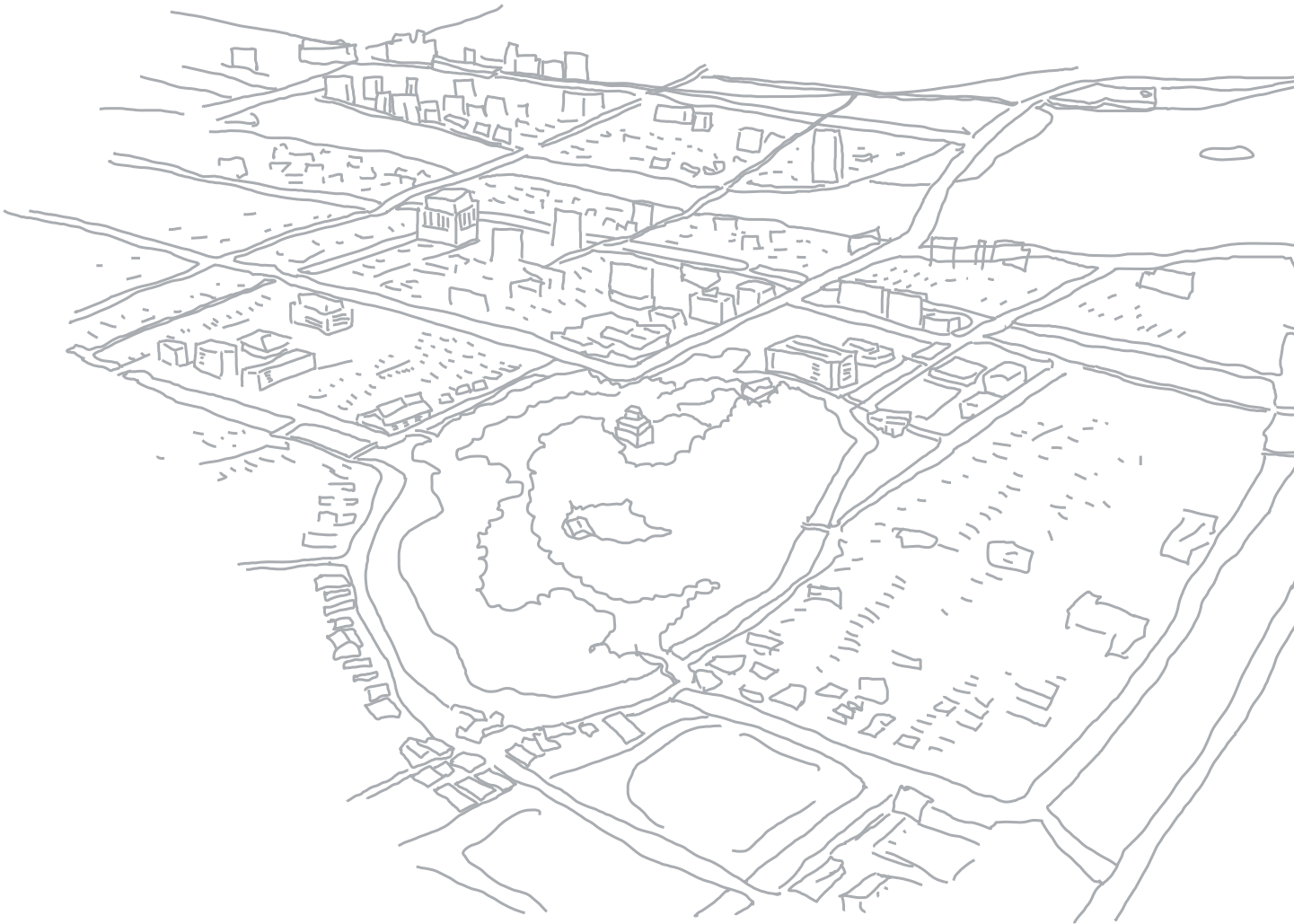
基本戦略を実行して
松江観光の将来像を実現します。

将来像

世界中から松江に人が集まる

コンセプト

Authentic Japan “MATSUE” ～城下町 水の都 暮らしに息づく伝統～



※コンセプトと基本戦略・主要施策を表現するイラスト

目 標

観光消費額

年間 **750** 億円

観光入込客数

年間 **1,100** 万人

宿泊客数

年間 **250** 万人

外国人宿泊者数

年間 **15** 万人

4つの基本戦略と主要施策

基本戦略 1

魅力ある
観光素材の
磨き上げ
p.00

質の高い、ストーリー性をもった観光コンテンツを磨き上げ、旅行者の満足度向上につなげます。



- 1 ユニークで多彩な観光資源の活用
- 2 城下町のまちあるきの推進
- 3 夜のまち・朝のまちの魅力向上
- 4 サステナブルツーリズムの創造
- 5 食と特産品の磨き上げ・高付加価値化

基本戦略 2

快適に過ごせる
環境づくりと
利便性向上
p.00

まちあるきや滞在、移動を快適なものにし、おもてなしの環境を整えます。



- 1 歩きたくなるまちなみ整備
- 2 快適に滞在できる環境づくり
- 3 移動の利便性向上
- 4 観光を担うひとづくりとおもてなしの向上

基本戦略 3

松江の
魅力発信と
誘客
p.00

効果的なマーケティングにより、国内はもとより世界中に松江ファンを広げます。



- 1 マーケティング・プロモーション
- 2 インバウンド - 松江への周遊促進
- 3 MICE の誘致
- 4 スポーツ・エンターテインメントの活性化
- 5 オフシーズン対策
- 6 ひと・企業とのつながりづくり

基本戦略 4

観光地松江の
土台づくり
p.00

リーダーシップのあるマネジメント組織のもと、効果的に観光まちづくりを推進します。



- 1 観光推進組織づくり
- 2 新たな観光財源の検討・導入
- 3 国内・海外からのアクセス向上

“魅力ある観光素材の磨き上げ

国宝松江城天守を中心とした城下町、そこで培われてきた茶の湯文化、受け継がれてきた数々の神事、日本最古の美肌の湯、豊かな自然など、松江には魅力的な観光資源が集積しています。

明治の文豪、小泉八雲が、私たちが気付かなかった松江の魅力を世界に発信したように、市民にとってはあたりまえのものが、まちの外、特に外国人観光客にとってはユニークで魅力的なものです。

これらは本物の日本が感じられるこの地域独自の観光資源であり、まさにインバウンド観光につながる魅力的な素材です。豊富で多彩な観光資源を、質の高い、ストーリー性をもった観光コンテンツへ磨き上げ、国内はもとより海外に発信し、誘客につなげます。

また、新鮮な魚介類や出雲そば、干し柿をはじめとする食、八雲塗、出雲民藝紙、各種窯元の焼物などの工艺品等の魅力を発信するとともに、商品開発、高付加価値化を図ります。



主要施策

- ①ユニークで多彩な観光資源の活用
- ②城下町のまちあるきの推進
- ③夜のまち・朝のまちの魅力向上
- ④サステナブルツーリズムの創造
- ⑤食と特産品の磨き上げ・高付加価値化

ユニークで多彩な観光資源の活用

伝統文化・歴史

松江には古い街並みが残り、私たちの暮らしには茶の湯や和菓子など城下町の暮らしが色濃く残るとともに、鑿行列、ホーランエンヤ、佐陀神能、地域の祭や伝統行事、民謡などが受け継がれています。また、古代出雲の繁栄を物語る豊富な遺跡群や神々を祀る神社があり、出雲神話にちなんだ祭礼が伝統的に行われています。まちには有形・無形の文化財が数多く存在し、歴史的建造物が歴史的まちなみを形成しています。こうした伝統文化、歴史の背景や由来、特徴をわかりやすい形で発信し、その魅力を伝えることが必要です。AR・VRなどのデジタル技術を駆使して伝わりやすい表現で発信し、理解を深めていきます。

芸術・アート

海外でも知られる葛飾北斎の作品を多数所蔵する島根県立美術館や、日本庭園「由志園」など、国内外から多くの観光客が訪れる美術館や日本庭園を有しています。また、由緒ある窯元や八雲塗、現代アートの創作活動も活発です。海外の劇団も出演する「森の演劇祭」や音楽祭、アート展など文化芸術に触れる機会が数多くあります。こうした松江の誇る芸術やアートを、国内外に発信していきます。

写真

癒しの温泉

玉造温泉は美肌温泉として特に女性をターゲットに発信するとともに、神話のオブジェや足湯、毎日行われる夏祭りなど様々な企画で魅力を高めています。松江しんじ湖温泉は、松江城と徒歩圏内にあり街の中心に位置している一方で、宍道湖や大橋川の優雅な景色が目の前に広がっています。こうした魅力を発信し、ブランド力を高めています。

豊かな水辺空間

「日本の夕陽百選」に選ばれる宍道湖の夕陽は「水の都・松江」の代名詞です。宍道湖に浮かぶ嫁ヶ島へ歩いて渡る、お茶席が体験できるイベントや、大橋川に浮かぶ無人島でキャンプやたき火等が楽しめるツアーでは、非日常が体験できます。さらにSUPなどが気軽に、誰でもできるような環境を整備し、「水の都・松江」を実感できる多様なアクティビティを実現します。



縁結び・神話の世界・怪談

松江には、他の地域にはない宝があります。「神在月」「縁結び」といった出雲神話の世界、小泉八雲が著した「怪談」。ここに住む人々は、こうした精神性や神秘の世界を重んじて、暮らしてきました。「縁結び」の神社やゆかりのスポットの紹介、ゴーストツアーや声優などの著名人による怪談朗読イベントなど「怪談」にちなんだ企画を実施し、本地域の世界観を発信します。

コラム

「松江の文化力」

松江市には、豊富に残る文化財や地域に受け継がれる伝統行事、暮らしに根付く茶の湯文化や生活文化、市民の心の糧となる文化芸術活動、これらの拠点施設、人と自然が織りなす景観など、市民の暮らしの根底にあり市民の誇りとなりうる力、「松江の文化力」があります。

2021(令和3)年3月に「国際文化観光都市」70周年を迎えるにあたり、「松江の文化力」を再認識し、世代を超えて誰もが心豊かになれるまちにしていくための指針を示すため、「松江の文化力を生かしたまちづくり条例」を制定しました。



- デジタル技術の活用と外国人向け発信の強化
- 水辺のアクティビティ・食・催しができる仕掛けづくり

城下町のまちあるきの推進

職人商店街

市内中心部、特にJR松江駅から国宝松江城までの「L字ルート」を、まちあるきが楽しめる魅力的なルートにしていきます。伝統工芸、和菓子、アートなど職人の技を見学したり体験できる店は外国人観光客にとっても魅力的であり、市民はもちろん国内外の観光客が楽しめる店舗をつくります。また、空き家や空き店舗を活用した新たな出店を後押しし、市内を散策しながら「観て」「体験できる」楽しさと、飲食、買い物が楽しめる賑わいのあるまち「職人商店街」の創出に取り組みます。あわせて、車で来た観光客が駐車場に困らないよう情報提供を行い、まちあるきに繋がるしくみを検討します。

城下町の町割りと歴史的建造物

歴史的な街並みを形成している歴史的建造物等を巡るまちあるきや、城下町の暮らしや文化、町割り、神社仏閣などに触れて歴史を体感するまちあるきなど、城下町の散策が楽しめる仕掛けをつくります。また、城や町の仕組みや移り変わりなどについて、映像、模型、切り絵等の楽しい手法で展示している松江歴史館を活用し、松江の歴史への理解を深めます。

カラコロ工房

松江に馴染みのある食材などを揃えた「マルシェ」や、ランチタイム・ナイトタイムの両方が楽しめる店舗、お茶や和菓子、陶芸などのものづくり体験ができるスポットとしてリニューアルし、街中の回遊性と賑わいを創出します。

写真

市役所新庁舎

新庁舎は宍道湖畔、松江しんじ湖温泉、松江城等をつなぐ結節点となります。宍道湖の眺望を楽しむ場、市民との交流の場や休息場所など、新たなまちあるきの拠点として利用できるようにします。

- 「職人商店街」創出プロジェクト
- 歴史的建造物を巡るまちあるきの促進
- 旧日銀松江匠公房（カラコロ工房）リニューアルに伴う賑わい創出
- 市役所新庁舎の観光への利用

「職人商店街」創出プロジェクト

松江市中心市街地の商店街に賑わいを再生させるため、多彩な伝統工芸、伝統産品などが集まる「職人商店街」を創出します。

松江には観光資源でもある、和菓子、お茶、地酒、蕎麦、漆器、陶器など、歴史・伝統に紐づく誇れる財産が多数あります。「職人商店街」では、伝統工芸などの職人の手仕事の「見える化」と「ものづくり体験」を提供し、「観る」「体験する」の2つのエンターテインメントを創出します。

また、カラコロ工房のリニューアルや、空き家・空き店舗を活用し、インキュベーション機能を持った賑わいの拠点を整備していきます。そうした拠点間に飲食や買い物を楽しめる店舗の出店を促していくことで、賑わいの「点」が「線」となり、さらには「面」となる、賑わいのあるまち「職人商店街」の創出に取り組みます。

① 既存店舗のリノベーション促進

和菓子、お茶、地酒、蕎麦、工芸などの老舗の職人の技を見て、体験して楽しむための、店舗の改装の支援

② 空き家や空き店舗を活用した拠点づくり

意欲のある工芸作家の製作・体験・販売などの活動拠点整備

職人の手仕事の

見える化

ものづくり体験



2023

2024

2025

2026

2027

2028

2029

2030

既存店舗のリノベーション促進

店舗改装支援・既存店舗リニューアル

空き店舗等を活用した拠点づくり

拠点整備
拠点運営(体験メニューの提供)

機運醸成イベントの開催

イベント開催(随時)

3

夜のまち・朝のまちの魅力向上

光・灯の演出

松江城、カラコロ工房、美保関灯台などの建造物や、嫁ヶ島や大橋川周辺の水辺空間のライトアップ、玉造温泉街の影絵、松江しんじ湖温泉の通りや美保関の青石畳通りへの行灯設置など、様々な場所で光の演出がされています。今後も松江の景観に合った光の演出をしていくとともに、デジタルアートを活用した演出なども行い、夜も楽しめる仕掛けづくりを進めていきます。

夜の賑わい創出

「松江水郷祭」や「松江水燈路」を見ごたえのあるイベントにしていくとともに、ゴーストツアーなど「怪談」をテーマとした企画や玉造温泉夏祭りなど夜の企画・イベントの充実を図り、宿泊客の増加につなげます。

カラコロ工房に夜も存分に楽しめる空間を演出し、人々の憩いの場をつくります。

また、商店街等で行われる夜の催しと連携し、夜の賑わいが市内の各所で広がるような取組みを行います。

写真

朝の松江を満喫

早朝の宍道湖岸ランニングやウォーキング、地元住民との交流や食が楽しめる「朝市」など朝のコンテンツを組み合わせ、朝の松江を楽しめる仕掛けを作ります。また、宿泊施設や飲食店で松江の食材をつかった「美味しい朝食」が提供できる仕掛けをつくります。

写真

主要事業

- 城下町松江らしい光の演出
- 催しなどによる夜の賑わい創出

4

サステナブルツーリズム^(※1)の創造

松江市周辺部は豊かな地域資源を有し、北は美しい日本海、東は大根島、南は緑豊かな山々が広がっています。そこには豊かな自然環境や古くから伝わる文化、伝統が受け継がれています。これらを守り生かしながら、持続可能な観光地域づくりを推進します。

豊かな自然

日本海に面した島根半島は「大山隠岐国立公園」に指定された豊かな自然と、特徴ある地形の成り立ちから「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」にも認定されています。これらの自然環境を大切に守りながら、トレッキング、サイクリング、ダイビング、キャンプなどのアウトドアアクティビティを提供するとともに、四十二浦巡りや潜戸遊覧等の地形を活かしたツアー、ゴミの持ち帰りの推進や漂着ゴミ・海中ゴミの実態を知るメニューの提供も行い、環境保全の意識を醸成します。また、ラムサール条約に登録されている宍道湖・中海は野鳥観察の絶好の場であり、観察を通して自然環境への関心を高める、いわゆるエコツーリズムの可能性も探っていきます。

写真

写真

歴史・伝統文化・人々の暮らし

島根半島部の浦々にある集落をはじめ、市の周辺部には独自の伝統文化や風習が今でも受け継がれています。特に外国人観光客にとっては、日本人の暮らしや文化に触れることのできる魅力にあふれています。

また、地元の歴史文化を物語る物や場所、見どころ、散策ルートなどの情報をまとめた「まち歩きマップ」を活用し、地元ガイドによる「歴史のまち歩き」を各地域で行っており、地域の歴史や伝統行事、地場産業、生活の息吹が感じられるマイクロツーリズムを推進していきます。

このような取り組みを通じて、干し柿の風景、出雲民藝紙、佐陀神能、牡丹畑、地域の祭や伝統行事、こうした歴史・伝統文化や人々の暮らしを守り受け継ぎながら、観光に活用していきます。

- アウトドアアクティビティの推進
- エコツーリズムの推進
- マイクロツーリズムの推進

主要事業

※1 サステナブルツーリズム：
訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光。
(国連世界観光機関：UNWTO 定義)

食と特産品の磨き上げ・高付加価値化

特産品の開発・ブランド化

日本一の漁獲量を誇る宍道湖のシジミ、日本海の寒ブリや松葉ガニなどの新鮮な海の幸を全国に発信し、知名度を高めるとともに、現在取り組んでいるアワビの陸上養殖を実用化し、地元のホテル・旅館・飲食店(居酒屋・レストラン)に活アワビを安定供給することで、地産地消の実現と本市の新たな食ブランドとして観光誘客につなげます。

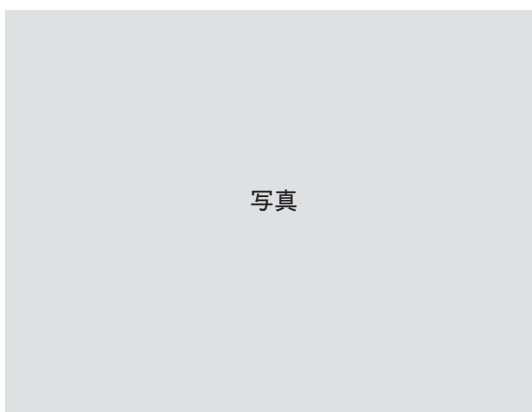
「出雲そばの日」である2月11日をPRして出雲そばを特産品として定着させるとともに、そばと地酒を提供するなど、夜も出雲そばを楽しめる店舗を増やします。また、京都や金沢と並ぶ「日本三大菓子処」である松江で培われた上質な和菓子や茶の湯文化、伝統的な地域の食である「干し柿」、地酒の高付加価値化とブランド化を図ります。

写真

写真

ガストロノミーツーリズム^(※2)

本市には、「出雲そば」「ぜんざい」、松江藩主が好んだ「鯛めし」や「すずきの奉書焼」のほか、地元食材をつかった様々な伝統料理があります。また、八雲塗、楽山焼、袖師焼などの器、地酒や醤油、老舗料亭など、古いものが今に受け継がれています。松江の食とその背景にある文化や伝統を融合させたガストロノミーツーリズムを開発します。



写真

料理の開発と伝統の承継

松江の食文化・郷土料理を学び、磨きをかけるとともに、後継者の育成、伝統文化の承継に取り組んでいる松江郷土料理研究会などと連携し、旅の重要な要素である料理の価値を高めます。

コラム

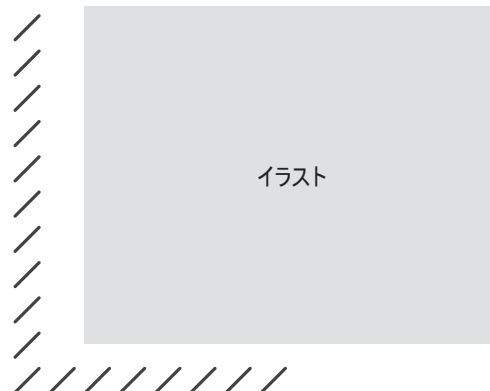
「松江と出雲そば」

出雲地域における「そば切り(細く切った麺状のそば)」の最古の記録は、約350年前の1666(寛文6)年までさかのぼります。出雲大社の神職が、松平直政公の家臣の松江城下にある宅で、出雲大社の造営工事について協議。そこで「蕎麦切」の振る舞いがあった、と記しています。

(参考文献:島根県立古代出雲歴史博物館HP ニュース一覧 2015-10-23)

城下町松江にくらす人々がそばを楽しむなかで地元の産品を葉味としたり、辛めのかつお出汁とあわせたりすることで、洗練した味覚として高められてきたと考えられています。

(松江そば文化ブランド化推進協議会からの資料による)



イラスト

- 特産品の開発・ブランド化
- ガストロノミーツーリズムの開発

※2 ガストロノミーツーリズム：その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しむ、その土地の食文化に触れることを目的としたツーリズム。(観光庁HPより引用)

“快適に過ごせる環境づくりと利便性向上

観光客の満足度を高めるためには、観光コンテンツの魅力のみならず、ストレスなく、快適に過ごせる受入環境が重要です。

観光案内機能の充実やキャッシュレスの促進、Wi-Fi 環境整備をはじめとする受入環境のほか、アクセスの利便性向上、「歩いて楽しい」まちづくりにより、観光客が快適に移動し、観光地を巡り、買い物や食事ができるよう、環境を整えます。

また、旅で出会う「人」との交流や「おもてなし」も旅の思い出となることから、観光客を温かく迎えることのできるホスピタリティの向上についても積極的に進めていきます。



主要施策

- ① 歩きたくなるまちなみ整備
- ② 快適に滞在できる環境づくり
- ③ 移動の利便性向上
- ④ 観光を担うひとづくりとおもてなしの向上

1

歩きたくなるまちなみ整備

「L字ルート」の整備

JR松江駅から国宝松江城までの「L字ルート」を中心として、わかりやすい「サイン」を設置し、観光客が寄り道しながら楽しく歩ける街並みを整備します。あわせて白潟本町通りを歩行者中心の道路へ整備するとともに、整備後は沿線に魅力的な店舗が並ぶことで、賑わいのある、歩いて楽しい通りを目指します。

また、松江城大手前駐車場について、まちあるきの促進の観点、観光客の利便性などの観点から今後の利活用を検討していきます。

水辺空間の整備

大橋川の拡幅により、水辺の空間が大きく変わります。観光客が「水の都」の魅力をより感じられるよう、国と連携して整備を進めていきます。宍道湖畔にキッチンカーが並び、イベントや水上アクティビティが楽しめるにぎやかな水辺を目指し、子どもも大人も安心して遊ぶことができる親水空間を整備します。

城下町松江の景観

「松江市景観計画」^(※1)に基づき、高層ビルの高さや屋外広告物の制限等を行い、松江ならではの歴史・文化と調和した自然環境や景観を大切に守っていきます。

写真

主要事業

- 白潟地区まちなみ整備
- 水辺の利活用促進事業

Key Project

※1 松江市景観計画：
2007（平成19）年、景観に関する総合的な法律である景観法に基づき策定した。松江市全域を景観計画区域に指定し、良好な景観の形成に関する方針、行為の制限に関する事項などを定め、市民・事業者・行政がそれぞれの責務を積極的に果たしながら、美しく風格ある松江固有の景観を守り（保全）、開発と保全との調和のとれた快適で安全な魅力あるまちを育て（創造）、市民共有の財産として後世に伝える（継承）ことを目的とする。

水辺の利活用促進事業

中心市街地に位置する宍道湖東岸や大橋川上流部の水辺は、「水の都・松江」を象徴する優れた景観を有しています。大橋川改修とその関連事業によって新たな水辺空間の整備が進み、その魅力は一層高まります。

これらの水辺空間において、持続可能な利活用の仕組みをつくり、商業利用や市民利用を促進することで、日常的に市民や観光客で賑わう水辺空間を創出します。

そして、松江駅前から松江城までを歩いて楽しめるよう、まちなかと水辺をつなぐまち歩き動線の形成を目指します。

① 水辺の魅力向上

様々な利活用の可能性を検証するため、各種アクティビティの社会実験の実施、検証結果に基づく水辺や水面利用のルールづくりや基盤整備、夜のまちあるきのための夜間景観照明の整備

② 河川空間のオープン化 (都市・地域再生等利用区域の指定)

商業利用の可能性の検証と地域の合意形成を目的とした社会実験の実施、可能な区域から都市・地域再生等利用区域の指定を受け、河川空間の商業利用を実施



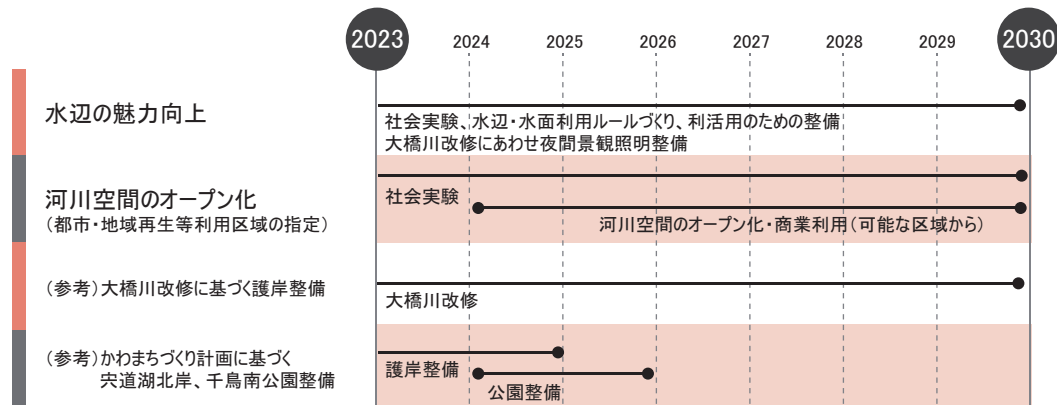
水辺の縁日



歩いて渡る嫁ヶ島



夜の水辺の活用



2

快適に滞在できる環境づくり

ストレスのない観光

松江の玄関口である松江国際観光案内所におけるインバウンド対応や情報提供を充実するため「カテゴリー3」^(※2)へのレベルアップを図るとともに、市内各観光案内所や観光施設の案内機能を充実します。また主要観光施設等におけるWi-Fi環境の整備、キャッシュレス決済、多言語サインなどにより、不便なく快適に滞在できる環境を整えます。

ユニバーサルデザインの環境づくり

高齢者や障がいのある方など、誰もが安心して滞在できるように、観光バリアフリーの取組みを進めていきます。総合窓口となる『松江バリアフリーツアースセンター』においてバリアフリー情報の発信や旅行相談、介助コーディネート、観光事業者を対象にした研修を実施しており、今後も連携して取り組みます。また、観光庁の「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の活用を民間事業者へ促し、バリアフリーの観光地を目指します。

ハード面については、誰もが安全かつ快適に過ごせる環境を目指し、公共施設などのバリアフリー化や優先駐車場の整備を行うとともに、民間事業者のバリアフリーの取組みを促します。

清潔で安心なトイレ

トイレは施設や観光地の印象を左右するほど重要な要素です。公園等の市内公衆トイレを、高齢者や障がいのある方、妊婦や親子連れの方など、あらゆる人が利用しやすいトイレ、またいつも清潔に保たれているトイレ環境へと整備します。

写真

フードダイバーシティ（食の多様性）

・生活スタイルへの対応

アレルギーや宗教など様々な理由によって口にできる料理に制限があるベジタリアン等の食事や、各地域の生活習慣など世界の多様な食事・生活スタイルに対応し、インバウンド客をはじめ様々な人が安心して滞在できるよう、官民で普及啓発を行います。

環境配慮型の観光地へ

市中心部にある松江城を中心とした観光地エリア・温泉地エリアを対象として、グリーンスローモビリティや電動キックボードの導入や、再生可能エネルギーによる温泉配湯など、脱炭素のシンボリックな取組みを行います。

主要事業

- 観光案内所の機能充実
- バリアフリー観光の環境整備
- 清潔で安心なトイレの整備
- 多様な食事・生活スタイルへの対応
- 観光地エリアの脱炭素化

※2 カテゴリー3:

JNTO（日本政府観光局）が運用する外国人観光案内所の認定制度の区分。カテゴリー1～3と「パートナー施設」の4区分がある。最上区分のカテゴリー3は「常時英語による対応が可能。その上で、英語を除く2以上の言語での案内が常時可能な体制がある。全国レベルの観光案内を提供。原則年中無休、Wi-Fiあり。ゲートウェイや外国人来訪者の多い立地。」とされる。認定は3年ごとの更新制。（JNTOのHPより抜粋）

移動の利便性向上

松江市と周辺地域の交通アクセス

空港と駅や港を結ぶ定期便や、区内内乗り放題の周遊パスポートなど、松江市と周辺地域を結ぶ交通は利便性の向上を図るうえで、必要不可欠です。市内主要観光スポットを巡る「ぐるっと松江レイクライン」は観光客の利便性が高く、多くの方に利用されています。また、観光タクシーは観光客のニーズに応じて周遊でき、観光情報も提供しています。路線バス、電車の公共交通やレンタカーなども含め、観光客が不自由なく観光地を行き来できるよう交通案内を充実するなど、利便性の向上に向けた検討をしていきます。

写真

写真

新たなモビリティの導入

新たな観光モビリティとして、気軽に利用できる電動キックボードや遅い速度で景色を楽しみながら移動するグリーン・スロー・モビリティなどの多様な交通手段が試行されています。観光客のニーズ、安全性、採算性を検証し、可能性を探ります。

水上交通

大橋川周遊ルートや市街地と周辺地域とを水上交通で結ぶことにより、「水の都・松江」を体感し、非日常で「ここにしかない」まちの旅を演出することで、松江の魅力を高めます。単なる交通手段ではなく、新たな観光資源の観点も取り入れながら、松江ならではの交通として検討していきます。

- 新たなモビリティの導入検討
- 水上交通の検討

観光を担うひとづくりとおもてなしの向上

旅は観光地のみならず、「人」との交流や「おもてなし」も旅の思い出となります。よい出会いが生まれると、観光地松江のイメージアップにつながるとともに、再び訪れるきっかけとなるなど、リピーター増や交流人口増にもつながります。

市民のホスピタリティ

一人一人の市民が、ホスピタリティをもって観光客を迎える気運の醸成を図っていきます。挨拶や道案内の場面で気持ち良い対応をする、ゴミを拾う、花を植えるなどきれいな環境づくりをするなど、出来ることから行動し、まちをあげておもてなしの心で観光客を迎えます。

また子どもたちへふるさと教育などを行い、松江への郷土愛を育み、子どもの頃から来訪客に対するおもてなしの心や松江への愛着を醸成するとともに、まずは市民一人一人が「松江の魅力を知る」機会を提供していきます。

観光事業者のスキルアップ

宿泊施設・観光施設、交通事業者など観光事業者が、接遇やおもてなしのスキル、松江の文化歴史、観光スポットなどの知識、外国の文化の違いや外国人観光客とのコミュニケーション、障がい者・高齢者・妊婦の方への対応などを学ぶ機会を提供し、観光地として一体的なレベルアップを図ります。

写真

ガイドのスキルアップ

市内では松江ボランティアガイドの会、松江グッドウィルガイド連絡会などのボランティア団体・グループが、豊富な知識とホスピタリティで観光客に松江の魅力を伝えており、松江の観光になくてはならない、重要な役割を果たしています。今後もボランティアの活動をサポートし、ガイドの充実を図っていきます。

外国人観光客にはそのニーズに応じて、歴史文化、伝統、習慣をわかりやすく伝えることが重要です。高付加価値のサービスを提供できるように、通訳案内士など外国語通訳ガイドのスキルアップを図ります。



観光産業を支える人材や文化の担い手

松江市の高校や大学、専門学校などの学生に、インターンシップや研究を通して、松江の観光を学ぶ機会を提供し、松江の観光への理解を深め、将来、松江の観光を担う人材の育成につなげます。また、松江の観光に不可欠な文化の担い手(郷土料理、茶道・華道、和菓子、伝統行事、伝統工芸など)の育成に繋がる支援に取り組みます。

コラム

「堀川遊覧船と市民のおもてなし」

今では松江観光の目玉の1つとなっている「ぐるっと松江堀川めぐり」は、1997(平成9)年に就航しました。

以前は生活用水であったため、民家のすぐ裏を観光客が船で通ることを快く思わない方もいましたが、環境整備が進み遊覧船が定着してくると、近隣の町内会で進んで季節の花を植えるなど「おもてなし」の取り組みが増えてきました。遊覧船に手を振る住民も見かけます。



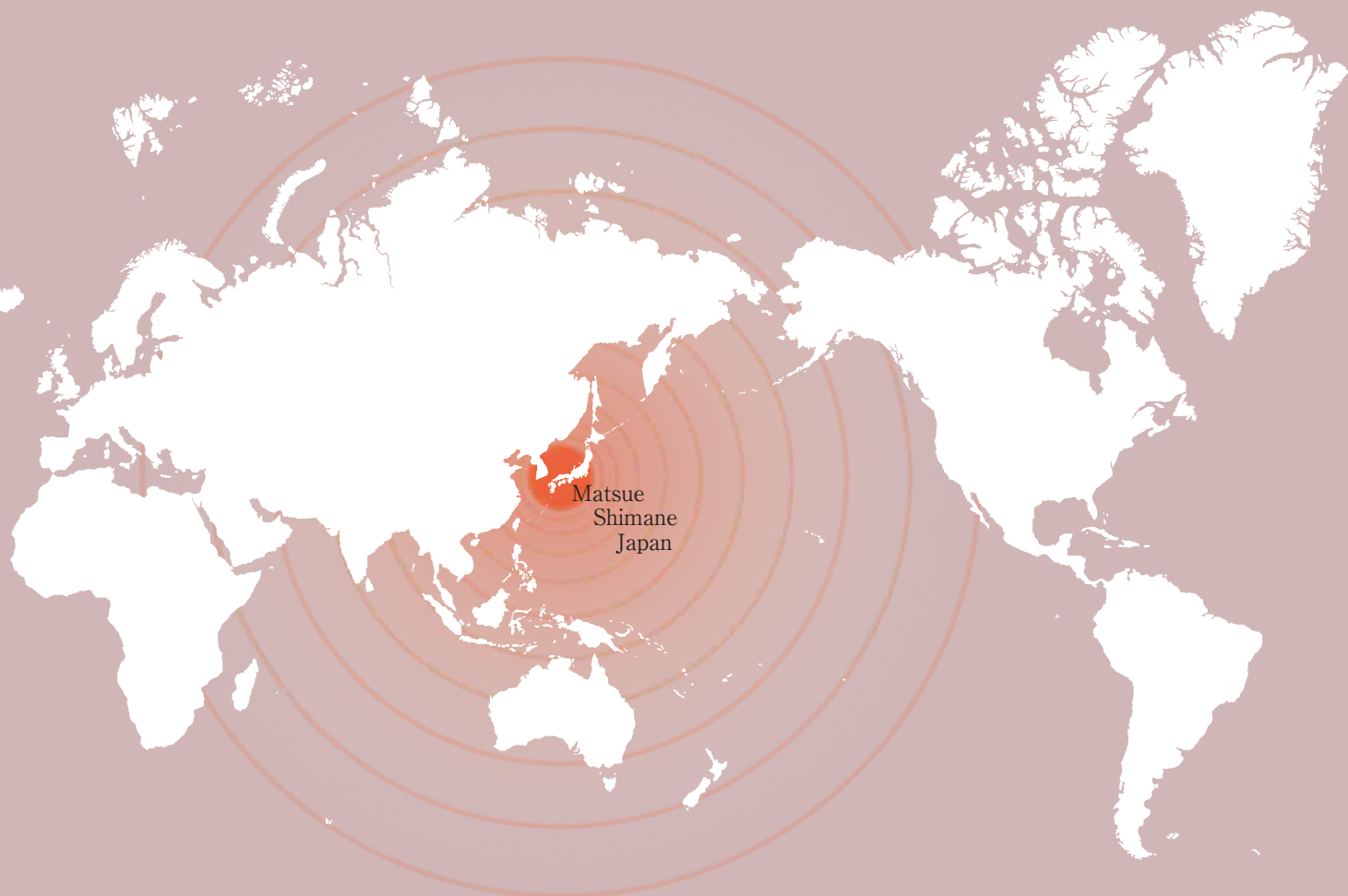
- 外国人観光客受入スキルアップ事業
- おもてなしとひとづくり

“松江の魅力発信と誘客

2021(令和3)年度に策定したMATSUE DREAMS 2030(松江市総合計画)には、2030(令和12)年にめざす姿の一つに『「国際文化観光都市・松江」の魅力が世界の人に伝わって、松江ファンの輪が拡がり、リピーターでにぎわっています』が掲げられています。

私たちを取り巻く社会環境や国際情勢、旅行を取り巻く環境が大きく変化する中、旅行ニーズや動向を的確に捉え、マーケティングに基づく観光コンテンツ開発や効果的なプロモーションを展開し、誘客を図っていきます。

特にインバウンドについては、ターゲット市場の旅行ニーズを把握するとともに、観光資源を磨き上げて高付加価値化を図り、特別感のある商品をつくることで、富裕層の誘客につなげます。



主要施策

- ① マーケティング・プロモーション
- ② インバウンド - 松江への周遊促進
- ③ MICEの誘致
- ④ スポーツ・エンターテインメントの活性化
- ⑤ オフシーズン対策
- ⑥ ひと・企業とのつながりづくり

1

マーケティング・プロモーション

マーケティング・プロモーション

近年、目まぐるしく変わる世界や社会の情勢、そしてコロナ禍を経験し、観光を取り巻く環境が大きく変化しています。個人旅行、アウトドアなど旅のスタイルが変化し、城、鉄道、美術館巡りなどの魅力に触れる旅などニーズも多様化しています。またアニメ、ゲーム、キャラクター等のコンテンツも多くのファンを惹きつけます。こうした旅行スタイルやニーズ、トレンドを的確に捉え、ターゲットを定めたプロモーションが必要です。松江の観光動態を把握し、分析、検証していくことも重要です。こうしたマーケティングに基づく効果的なプロモーションを展開していきます。

インバウンド

JNTO(日本政府観光局)の調査によると外国人観光客が訪日旅行に求めるものは主に「食文化・ガストロノミー体験」「歴史的な遺跡や建造物」「四季折々の自然体験・鑑賞」などとなっており、本市には活用できるコンテンツが数多くあります。国・地域別、旅行形態別などのニーズを把握し、効果的な発信を展開していきます。

写真

松江市のインバウンドのメインターゲット(重点市場)

- 東アジア地域 (台湾・韓国・香港・中国)
- 東南アジア地域 (タイ、シンガポール)
- 欧米豪 (フランス・米国)
- 南アジア地域 (インド)

旅行会社へのアプローチ

旅行の予約・手配は、旅行者が直接行う方法、旅行会社等を通して行う方法があります。松江の知名度を高め、松江を選んでもらうための情報発信に加え、旅行会社へのアプローチが重要であるため、旅行会社を対象にした観光情報説明会や商談会、セールス活動を通して商品造成を促します。また、旅行会社に対し、レイクライン乗車券提供等など販売促進のための支援を行います。

国内外の旅行会社へ積極的にアプローチし本市に外国人観光客の誘客を促進するとともに、新たに富裕層の外国人観光客のツアーを取り扱う旅行会社へアプローチし、本市への誘客に取り組んでいきます。



写真



写真

- マーケティングの強化
- 海外への市長トップセールス

インバウンド - 松江への周遊促進

広域観光ルートづくり

アフターコロナに向けて海外から日本への旅行意欲は高く、瀬戸内国際芸術祭や2025(令和7)年の大阪・関西万博、世界陸上競技選手権大会、2027(令和9)年のワールドマスターズゲームズ関西の開催により、海外から多くの観光客やメディアが日本を訪れると見込まれています。これらを絶好の機会と捉え世界に向けて情報発信するとともに、(一社)山陰インバウンド機構、中国地域観光推進協議会などと連携し、関西方面や広島方面から松江市、そして山陰への周遊を促進します。特に欧米の旅行者は滞在期間が長く、来日してから行き先を決めるケースも多く、国内での発信を展開します。

関西において観光プロモーション(訪日外国人への情報発信)を行うとともに、多くの外国人観光客が訪れる広島からの誘客を図るため、広島-松江間の高速バス運賃を割り引くワンコインバス事業を実施します。また、(一社)山陰インバウンド機構が販売する関西から中国地方を便利でお得に周遊できるデジタルパスポートの活用を促進していきます。

関係機関との連携強化

松江市周辺、特に中海・宍道湖・大山圏域には出雲大社、足立美術館、大山、鬼太郎のまちなど豊富で多彩な観光資源に恵まれるとともに、二つの空港、大型クルーズ客船が寄港する境港などのゲートウェイ機能を有しています。また、世界ジオパークに認定されている隠岐諸島、たたら製鉄など独自の歴史文化を有する雲南市、世界遺産石見銀山のある大田市など、近隣には世界に誇る観光資源があふれています。これらの優位性を最大限生かし、海外からの誘客を図るため、島根県や(一社)山陰インバウンド機構、(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局との連携を強化します。

写真

- 関西におけるインバウンド向け観光案内の実施
- 広島からのワンコインバスの実施

MICEの誘致

MICE^(※1)は、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、開催地における高い経済波及効果やビジネス機会、イノベーションの創出等が期待されています。

充実した支援制度ときめ細やかなサポート

現在、各種コンベンションの主催者に対し、各種補助制度を設け支援するとともに、松江コンベンションビューローが開催まできめ細やかなサポートを行っています。今後、主催者や参加者のニーズに沿う支援を行うとともに、松江コンベンションビューローの東京駐在スタッフによる活動や、海外での誘致活動なども積極的に実施し、MICEの誘致につなげます。

写真

写真

アフターコンベンションの魅力アップ

開催地として選ばれるには地域の魅力が重要です。本市ではユニークベニュー^(※2)の会場として、フォーゲルパーク、日本庭園由志園、松江城山公園内の興雲閣などが利用されています。また、くにびきメッセから松江城周辺まで堀川遊覧船で移動するなど、松江ならではのユニークな体験も提供しています。

コロナ禍を経て、オンラインやハイブリッド形式の会議が浸透してきた状況下で、直接対面で実施するメリットを広く周知し、今後、国内外の参加者に満足いただける企画を開発するとともに、食事、買い物などの消費拡大につながる取組みを行います。

※1 MICE：
企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体・学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。（観光庁）

※2 ユニークベニュー
（Unique Venue: 特別な場所）：
「博物館・美術館」「歴史的建造物」「神社仏閣」「城郭」「屋外空間（庭園・公園）、商店街、公道等」などで、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会議。
（観光庁）

- 堀川遊覧船の特別コースの整備
- ユニークベニューの開発・活用
- 食事、買い物など消費拡大の仕掛けづくり

スポーツ・エンターテインメントの活性化

スポーツによる誘客促進

各種スポーツ大会の開催や誘致、国宝松江城マラソン、まつえレディースハーフマラソン、えびすだいきくマラソンなどのマラソン大会やサイクリング大会などのスポーツイベントには、全国から多くの参加者が訪れるため、海外からの誘客も視野に入れた取組みを行います。また、島根スサノオマジックなどのトップスポーツは、松江の知名度向上と県内外からの観客動員が期待されます。

今後、スポーツによる地域活性化や誘客促進の中核となるスポーツコミッションを設立します。

写真

フィルムコミッション

松江フィルムコミッションは、映画やテレビドラマ、CM等の撮影を誘致・支援することを目的に設立され、撮影場所の情報提供やロケの同行、サポートなど様々な支援を行っています。松江市にロケを誘致することにより、広く情報発信できるとともに、地域のイメージアップにつながり高い経済効果が得られることなどから、今後も積極的に誘致を図ります。

エンターテインメント

松江で著名なアーティストのコンサートや音楽イベント、各種エンターテインメントが開催されると、県内外から多くのファンや観客が松江を訪れます。また、来松したタレントやアーティストは松江のことSNSなどを通して広く発信されることが期待できます。こうしたエンターテインメントの開催をサポートするとともに、地元ゆかりのタレントやアーティストを応援し、松江の観光を応援していただく取組みを行います。

- 松江版地域スポーツコミッションの設立とスポーツによる観光誘客
- 映画・ドラマのロケの誘致

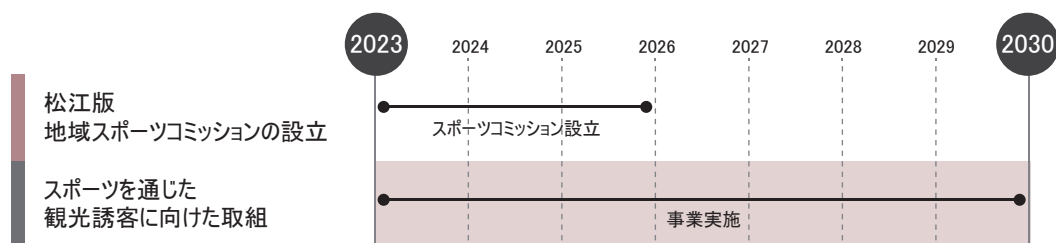
松江版地域スポーツコミッションの設立 とスポーツによる観光誘客

スポーツ関係団体・観光事業者・経済団体・市などの官民組織が連携した常設の組織である松江版地域スポーツコミッションを設立し、スポーツによる誘客促進を図るとともに、地元スポーツチームの活躍や大規模スポーツ大会の開催を観光振興や新規ビジネスなどに結び付け、年間を通じてスポーツによる地域活性化に取り組みます。

主な取組と活動内容の例

- ・ 松江版地域スポーツコミッション^(※3)の設立
- ・ スポーツツーリズムの推進
- ・ 経済波及効果を検証する仕組みづくり
- ・ スポーツ大会に参加する選手・関係者の属性・行動分析
- ・ 体験型旅行商品として情報発信

※3 地域スポーツコミッション：
地域のスポーツ団体、観光産業等の
民間事業者と地方公共団体が一体と
なって連携し、スポーツを目的とし
たツーリズムの推進や、スポーツイ
ベントの開催、大会・合宿の誘致等
により、地域活性化や地域課題の解
決をめざす取り組みを行う組織。



オフシーズン対策

松江市の観光入込客数、宿泊者数は1月、2月、6月、7月、9月に落ち込みます。年間の観光入込客数1,100万人、宿泊客数250万人を達成するためには、梅雨時期や冬季などの閑散期の誘客や平日対策を強化する必要があります。

冬季対策

冬の松江のコンテンツとして、定番の松葉ガニ、堀川遊覧船こたつ船のほか、民間の施設におけるイルミネーション企画など、様々な取り組みが行われています。また、2月から3月にかけては学生の卒業旅行シーズンのため、旅行会社の「卒業旅行商品」造成支援などを行っています。今後、冬のコンテンツ開発を行うとともに、ターゲット層を定めた効果的なプロモーションを実施します。

梅雨時期対策

梅雨時期等天候が不順な時期でも観光が楽しめる「縁雫(えにしづく)事業^(※4)」を実施しています。梅雨の魅力を発掘、発信するとともに、梅雨時期の週末に「縁雫花火」を検討するなど、新たなコンテンツの開発に取り組みます。

インバウンドによる平準化

国・地域によって旅行のハイシーズンが異なります。特に東アジアでは旧正月(春節)を迎える1月末から2月上中旬が休みとなり、訪日外国人観光客も増加することから、これに着目し、閑散期に海外需要を取り込んでいきます。

写真

※4 縁雫事業：

縁結びの地であり、水の都でもある松江は、雨の似合うまちです。そんな松江に降る雨を松江市立菅美が丘女子高の生徒たちが「縁雫(えにしづく)」と名付けました。松江へ降る雨は、こころをリセットし素敵な縁を結ぶ雨であり、そんな雨に関連する事業を市内各所で行います。(縁雫アンブレラスカイ、縁雫を巡る旅等)

- 閑散期のコンテンツ発掘・開発とプロモーション (冬季対策・梅雨期対策)
- 学生旅行、卒業旅行の誘致
- 冬季春節のインバウンド需要の取り込み

ひと・企業とのつながりづくり

松江式ワーケーション

ワーケーション^(※5)では健康と交流を重視した「松江式ワーケーション」の取り組みがはじまりました。松江の滞在中のストレスの低下が研究により実証されるとともに、宿泊施設におけるセキュリティ確保などの環境整備が行われています。今後、こうした環境の充実を図るとともに、豊富な観光資源を都市部の企業にアピールし、誘致に取り組みます。

松江観光大使制度

松江にゆかりのある方に「松江観光大使」に就任していただき、国内外に広く松江の魅力を情報発信していただくとともに、自身の関係する企業や人材を松江市に紹介いただくなど、「松江観光大使」を介したひと・企業とのつながりづくりを行います。

県人会、市人会

県外で組織される島根県人会や松江市人会等から、松江市の諸施策へ協力をいただいています。今後も、旬の観光情報を届け、松江の魅力発信について支援いただく取組を行います。

写真

写真

※5 ワーケーション：

Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと。余暇主体と仕事主体の2つのパターンがある。松江式ワーケーションは、Work(仕事)+Communication(コミュニケーション)。

- 松江式ワーケーションの誘致
- 松江観光大使制度の活用

“観光地松江の土台づくり

持続可能な観光地として発展していくためには、戦略的に継続した観光施策を推進していく必要があり、その中心的役割を果たす機能的な観光推進組織づくりを行います。

観光は裾野が広く、地域経済の活性化や雇用の創出、固有の歴史・文化の魅力向上につながる好循環を生み出すため、これらのサイクルを効果的に活用し、経済に還元する仕組みづくりを行います。また、そのためには観光振興に関する安定的な財源が必要であるため、今後新たな財源を検討し、導入に向けた取組を実施します。

あわせて、国際航空路線や新幹線、大型クルーズ客船の誘致など、国内外からのアクセスの向上に資する取組を促進します。



要了承@観光協会

主要施策

- ① 観光推進組織づくり
- ② 新たな観光財源の検討・導入
- ③ 国内・海外からのアクセスの向上

1

観光推進組織づくり

観光推進組織づくり

観光振興による地域の活性化を図るには、多様化する旅のニーズへの対応やインバウンド需要の取り込みを通して、地域の「稼ぐ力」を引き出していくことが必要不可欠です。

これまでは行政、(一社)松江観光協会、観光関連事業者を中心に観光振興に取り組んできましたが、今後は、文化、スポーツ、農林漁業、商工業、環境関連事業者、そして地域住民など、多様な関係者を巻き込み、地域が一体となって観光のまちづくりに取り組む必要があります、その司令塔となる観光地域づくり法人(DMO)の役割が重要です。

(一社)松江観光協会がその役割を担うことが求められています。

観光のまちづくりに関わる役割

観光のまちづくりに関わる関係者の役割を明確にし、効果的、効率的な取組を展開するとともに、連携強化を図ります。

松江市

観光戦略策定、ハード面での受入環境整備(景観、道路など)、交通政策、規制緩和、災害への備え、観光推進組織への財政支援、市各施策との調整など

松江観光協会

地域の多様な関係者の合意形成、戦略の策定・KPI設定・PDCAサイクルの確立、観光資源の磨き上げ、受入環境整備、プロモーションなど

地域の関係者

旅行者のニーズに対応した旅行商品や特産品の開発、観光のまちづくりを意識した活動など

地域住民

松江市への誇りや愛着を持つこと、地域を訪れる来訪者へのおもてなしなど

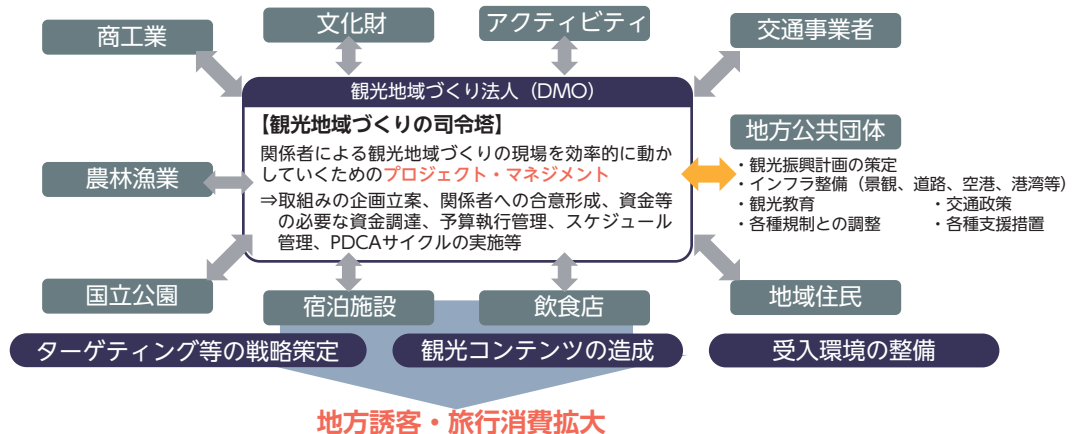
観光地域づくり法人(DMO)

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人

DMO: Destination Management/Marketing Organization

地域の関係者を巻き込んだ体制の構築

観光地域づくり法人(DMO)を中心とし、地域の関係者が主体的に参画した体制を構築



出典:観光庁HP

主要事業

◎ (一社)松江観光協会の体制強化

Key Project

(一社) 松江観光協会の体制強化

(一社)松江観光協会が観光のまちづくりをリードしていくためには、新たな機能を担っていかなければなりません。そのためには組織体制の強化が急務です。

専門知識やスキル、ノウハウを持つ人材を確保し、自立性の高い組織を目指します。

求められる役割

① 観光地域のマネジメント

行政や飲食、文化、スポーツ、農林漁業、商工業、交通事業、環境事業等の関連事業者、地域住民の多様な関係者の調整、地域全体での戦略的な観光のまちづくりのマネジメント

② データに基づく戦略策定

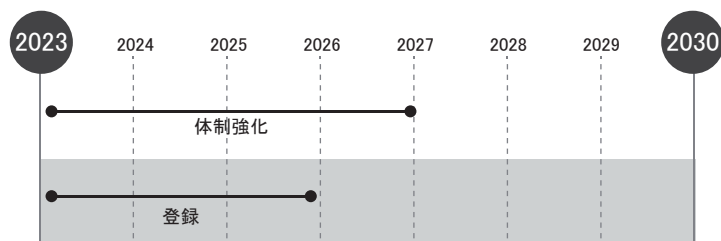
データ収集・分析による戦略策定、戦略を実行する機能の確立
KPIの設定、PDCAサイクルの確立

③ 戦略に沿った地域の魅力の向上、発信

観光資源の磨き上げ、地域が提供するサービスの品質管理の仕組みづくり、戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション

(一社)松江観光協会の
体制強化

観光地域づくり法人(DMO)
を目指す取組



2

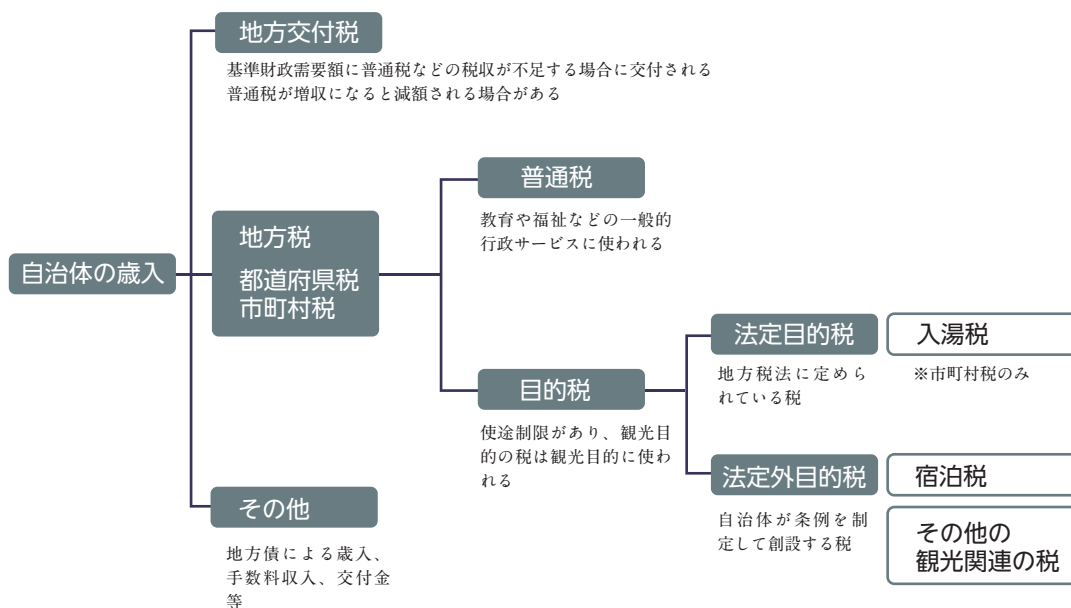
新たな観光財源の検討・導入

松江市が将来に渡り持続可能な観光地として発展していくために、本プランに沿って、観光素材の磨き上げ、快適に滞在できる環境づくり、情報発信と誘客に関する施策についてスピード感を持って実施していきます。また、事業推進の中心的役割を果たす組織づくりが求められるため、(一社)松江観光協会に専門人材を確保するなど組織体制の強化を図ります。

これらの新たな戦略を継続して推進していくためには、松江市の市税や地方交付税などの財源や既存事業の見直しによる財源の捻出に加え、安定的な財源が必要となるため、今後観光振興に関する新たな財源を検討し、導入に向けた取組を実施します。

観光財源となる地方税

[観光庁:観光地域づくり法人(DMO)における自主財源開発手法ガイドブック]



◎ 宿泊税導入の検討

Key Project

主要事業

宿泊税導入の検討

中長期的な観光戦略に基づき持続可能な観光まちづくりを進めるためには、今後安定的な新たな財源を確保していくことが必要となってきます。

また、(一社)松江観光協会が松江市からの補助金や出向者により構成されている現状では、機能的な観光推進組織体制に移行することは難しく、観光振興に関する継続的な財源を検討し体制強化を図ることは、今後の松江市の観光を考える上で重要です。

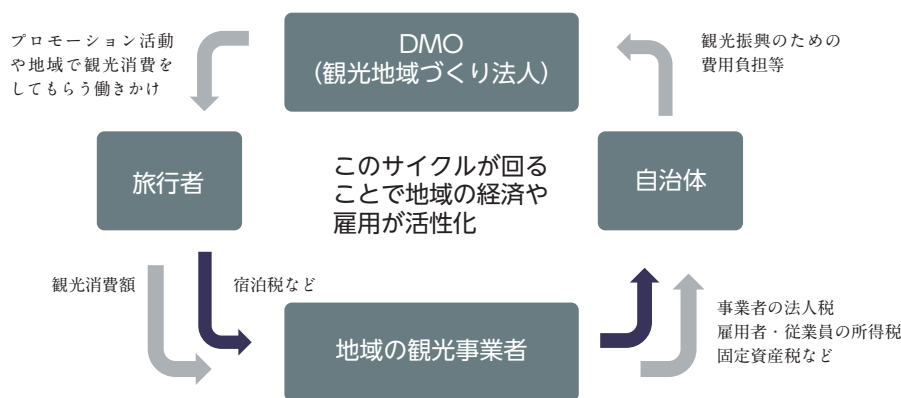
新たな財源については、「中長期にわたる安定的な財源となり、単年度ではなく数年単位で戦略が構築できる」「年度中途に生じる様々な状況に対応して、柔軟でタイムリーな執行が可能」「地域の特性に合わせてより取り入れやすく自由な制度設計が可能」といった利点のある法定外目的税の導入について検討することとし、法定外目的税の中でも、既に複数の自治体で導入され活用されている「宿泊税」の検討を進めます。

宿泊税は、サービスを受益している「宿泊する観光客」に対して負担を求めるものであり、用途を「観光に関することに限定する」ことによって受益と負担の明確化を図ることができます。また、新たな旅行者誘致や地域での消費を促進するための活動が行えるなど、観光を起点にした活性化のサイクルを生み出せる特徴があります。

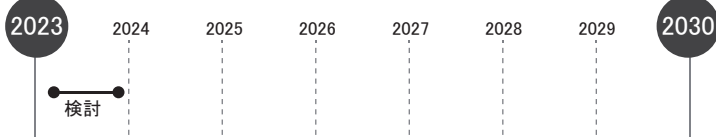
今後成果が見えるような制度設計及び用途について、十分な期間を設けて検討を行い、丁寧で理解が得られるような説明や取組を行います。

観光地域の資金の流れ

【観光庁：観光地域づくり法人(DMO)における自主財源開発手法ガイドブック】



宿泊税導入の検討



3

国内・海外からのアクセス向上

国際航空路線

本地域には出雲縁結び空港と米子鬼太郎空港の二つの空港があり、大都市圏のみならず、地方からも多くの観光客、ビジネス客が訪れています。島根県や周辺自治体とも連携し、航空便の利用促進や、便数の充実を図ります。

また、地元の空港に国際航空路線が就航すると、海外から直接本地域へアクセスでき、外国人観光客誘客や企業の海外進出の大きなチャンスとなります。引き続き、東アジア3路線が就航する米子鬼太郎空港からの誘客に取り組むとともに、出雲縁結び空港への国際定期便の就航実現に向けて島根県や周辺自治体と連携して誘致に取り組めます。

新幹線・高速道路

山陽、関西圏域を結ぶ新幹線の整備については、中国横断新幹線(伯備新幹線)と山陰新幹線の早期実現に向けて、島根県や中海・宍道湖・大山圏域が一体となって歩みを進められるよう、取り組めます。

また、山陰道の全線開通、高速道路の4車線化、「境港出雲道路」の整備促進を図り、地域振興の土台づくりを進めます。

境港(さかいこう)へのクルーズ客船

今後、大型クルーズ客船の境港への就航増加が見込まれます。山陰両県、(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局などと連携し、クルーズ客船の誘致や乗船客へのおもてなしや観光案内を行うとともに、松江市の観光情報を発信し、本市への誘客を促進します。

写真

◎ 出雲縁結び空港への国際定期便の誘致

主要事業

表紙写真：明島宵宮

惣津海岸にある「明島神社」で催される八朔祭宵宮。暗闇の中煌煌と照らされた提灯の灯が作った幻想的な海辺の風景を見ることができます。
(松江観光協会 美保関町支部 HP)

